

# 大学生が考える「働くとはどういうことか」 — テキストマイニングによる探索的研究 —

加藤里美

## I. 緒 言

大学において「キャリア教育」という名称の授業が始まったのは、1999年の中央教育審議会答申(文部科学省)が発端であろう。社会との円滑な接続を図るために、学生に「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる」というキャリア教育を実施していくとされたことである<sup>1)</sup>。

上述した動きの背景には、若者の生き方が、1985年以降の「フリーター」という言葉に集約されるように、社会や企業が求める人材とはかけ離れていき、生きていく上での逞しさの欠如が声高に叫ばれるようになってきたことがある。2004年には「ニート」という言葉も一般化し、社会問題化した。「働いたら負けかなと思っている」という名(迷)台詞まで登場し、その後10年近くもインターネット・ミームとして若者に広がっていった。社会や企業は学生の職業観や就業意識の希薄化を憂慮し、国も文部科学省、厚生労働省、そして産業経済省によるキャリアやキャリア教育に関する提言がなされ、政策が実施されるに至った。

そのような社会状況における日本は、2011年の東日本大震災、その後も各地で大雨や地震による未曾有の災害を経験した。さらに、経済の低迷を表現する「失われた30年」、国内外の国際化などさまざまな変化を受け入れ、2022年へと突入している。現在の大学生はZ世代(1996年～2005年生まれ)と言われ、上述の風潮を何かしら肌で感じて過ごしてきたわけである。そのZ世代の前半は既に社会へと飛び出している。続く後半が高校生と大学生である。

国が成熟化しフリーターやニートが社会問題化し出した時期と比べ、国が貧乏になってきたと言われる現在において、若者は「働くこと」をどのように捉えているのであろうか。本稿の目的は、大学生が働くということをどのように考

---

1) 文部科学省のホームページ参照。

えているのかを明らかにしていくことである。勤労観や職業観の育成は、学生が就職をするにあたり、人生においてどういう仕事人生を積み重ねていくかを考えていくことに繋がっていく重要な視点となる。また、現状における学生の勤労観や職業観を踏まえて、その育成、具体的には以降のキャリア科目の展開ならびに就職活動への支援に繋げていければと考えた。大きな課題が出てくるようなことがあれば、翌年以降の学部教育にも反映させることができる。

調査対象者は、愛知工業大学・経営学部経営情報システム専攻の3年生である。「あなたにとって働くとはどういうことか」として自由に考えを書いてもらった。それらの自由記述について計量テキスト分析を行うことで、大学生が働くということをどのようにとらえているのかを示していく。

## Ⅱ. 先行研究

### (1) キャリアとキャリア教育の定義

「キャリア」と「キャリア教育」の定義はさまざまである。欧米をはじめとして多くの研究者によりそれらの定義がなされている。日本の大学は国の方針によりキャリア教育を行っている現状を踏まえると、政府による定義を押さえておく必要があるだろう。

最初に「キャリア」であるが、厚生労働省(2002)は「一般に「経歴」、「経験」、「発展」、さらには「関連した職務の連鎖」等と表現され、時間的持続性ないしは継続性を持った概念である」とし、「キャリア」を積んだ結果として、「職業能力」が蓄積されていくとしている<sup>2)</sup>。文部科学省(2011)は、「人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係づけや価値付けの累積」と定義している。これらから明らかなことは、キャリアは仕事の発展的な移動で、個人の生涯にわたって継続され、人間的成長や自己実現が伴うものである。

「キャリア教育」に関しては、2011年の中央教育審議会答申が「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とした<sup>3)</sup>。これにより日本の大学のキャリア教育の

---

2) 厚生労働省のホームページ参照。

3) 経済産業省のホームページ参照。

方向性が決まったことになる。ここでのキャリアとは、「人が、生涯の中でさまざまな役割を果たす過程で自らの役割や価値や自分と役割との関係を見だしていく連なりや積み重ね」である。わかりやすく言い換えると、自分の人生における仕事人生をどのように積み重ねていくかということになるのではないだろうか。

## (2) 働くことの意味

安藤(2017)は、大学生が働くことの意味をどのように捉えているのかという問題意識から、キャリア教育科目は働くことの意味をどのように伝えているのか、またその内容は適切なのかどうかを検討した。2009年から2016年に出版されたキャリア科目10冊のテキストの記述からそれらを探った結果、以下の二つの特徴が明らかにされた。多くのテキストでは働くことの意味をとらえる多様な観点については説明されているが、中核的な意味自体は明示せず、その発見を学生自身に委ねている。また、働くことの意味を明示している一部のテキストは、著者の信念や一般常識的解釈を示しているだけに過ぎない。すなわち、キャリア教育のテキストにおける「働くことの意味」については、どのテキストも概念構造の中核は不明ということになる。すなわち、筆者の価値観を押しつけるのではなく、学生が主体的に考えていくことが重要ということなのであろう。

さらに安藤(2017)は、経済学の立場から現代の労働について俯瞰的に検討した杉村(1990)の論考から、過剰な自己実現に向かうとされる「労働のプレイ化」<sup>4)</sup>に着目した。その理由については、大学生を含む若者を対象にした多くの研究において、「好きなことや自分のやりたいことを仕事に結び付けて考える傾向」である「やりたいこと志向」(安達, 2004)が指摘されているからとしている。キャリア科目の指導に当たっては、大学生から見受けられる働くことの意味には上述のような傾向を踏まえることが重要であり、この労働のプレイ化に共感する一定の人々がいること、また労働のプレイ化に積極的な人の中には成功者も存在することも念頭においておく必要があるだろう。

---

4) 労働のプレイ化とは、「個人—集団」において、労働の意味の過剰な個人化が行われ、集団にかかわる意味を拘束としてみなして切り落とす。結果として、これらの合成ベクトルは「過剰な自己実現」として示され、労働の「プレイ化」と呼ぶことができる(安藤, 2018, 73頁)。

「働くとはどういうことか」に関しては、世間一般で言われることの羅列や規範を説くことになりがちであるが、労働のプレイ化をも取り込んだ上で、教員自身が働くことの本質的で包括的な考えを持つことは必要なことと考えられる。

### Ⅲ. 方 法

調査方法は、経営学科経営情報システム専攻の3年生(2021年度卒)が受講するキャリア科目の第2回目の授業において、「あなたにとって働くとはどういうことか」として自由に考えを書いてもらった。働くことをどのように考えているのかという質問には、働くことの原因や働くことで得られるもの等を含むため、体験等があればそれを含めて800字程度でと指示を出した。調査対象者は81名(男子学生73人、女子学生8人)である<sup>5)</sup>。

分析方法は、81名の自由記述をテキストマイニングのKH Coderに取り込み、共起ネットワーク、階層的クラスター分析、対応分析を行った。共起ネットワークで全体像を示し、出てきた要素がどのように連なっているのかを階層的クラスター分析で明らかにした。最後に対応分析で単語の偏りの大きさを示した。

### Ⅳ. 調 査 結 果

本稿では、自由記述の文章(40,383単語/重複含む)から組織名、人名、副詞や助動詞などを除く14,921単語を抽出して分析対象とした。最初に、KH Coderの共起ネットワークを用いて、単語同士の繋がり(強さ)によりコミュニティに分けた。図1には、働くことに関する共起ネットワーク1を示した。

図1は八つのコミュニティに分かれることがわかる。ただ②と③は「お金」と「必要」、③と④は「稼ぐ」と「手段」、⑧と②は「経験」と「得る」で弱い繋がりがある。以下に八つの構成要素を示した。

- ① 就職して働くことで価値を生み出すこと      ② 生活のために必要なこと
- ③ お金を稼ぎ趣味に使う      ④ 目標を達成し人生を豊かにする手段
- ⑤ さまざまな人やことに関わること      ⑥ 世の中ではお金で物を手に入れる

---

5) 学生には、記述した内容を分析して大学院紀要に投稿することの了解を得ている。その際には、個人的にどうこうという内容が出ないことの説明もしてある。

⑦誰かの役に立つこと      ⑧仕事をすることは成長に繋がる

上述の八つは、生活のためにお金を稼ぐ(②・③・⑥)、成長に繋がる(①・④・⑧)、人間関係(⑤・⑦)の大きく三つのグループ(働く理由、働くことで得られるもの、働くことに関係すること)である。

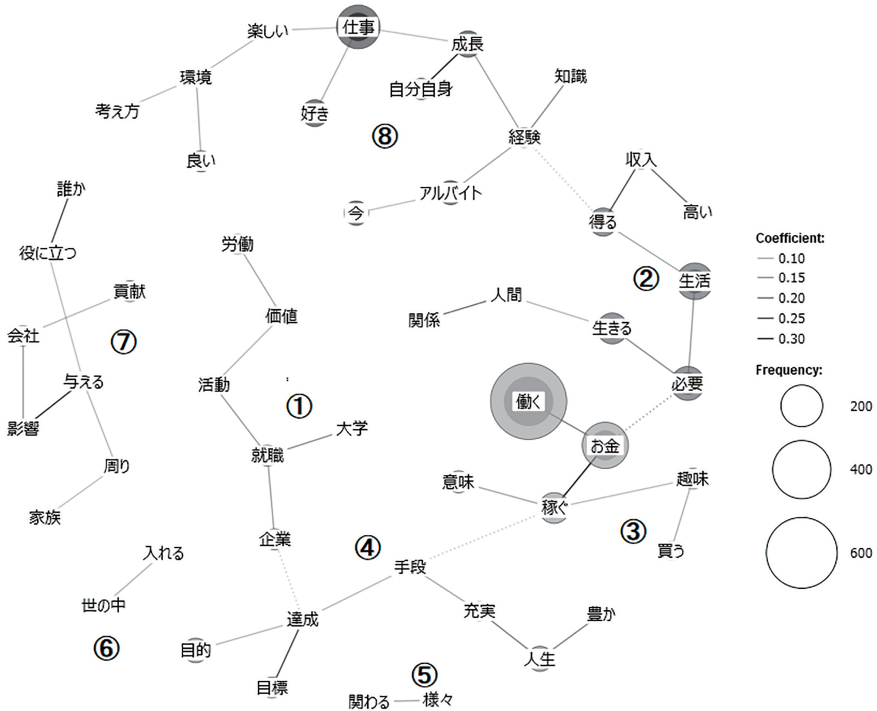


図1 働くことに関する共起ネットワーク1  
注)集計単位は「文」 最少スパニングツリーだけを描写

図2には、働くことに関する共起ネットワーク2を示した。図1と図2の違いは、分析の対象を図1は「文」、図2は「段落(一人の意見が一段落)」としたことである。

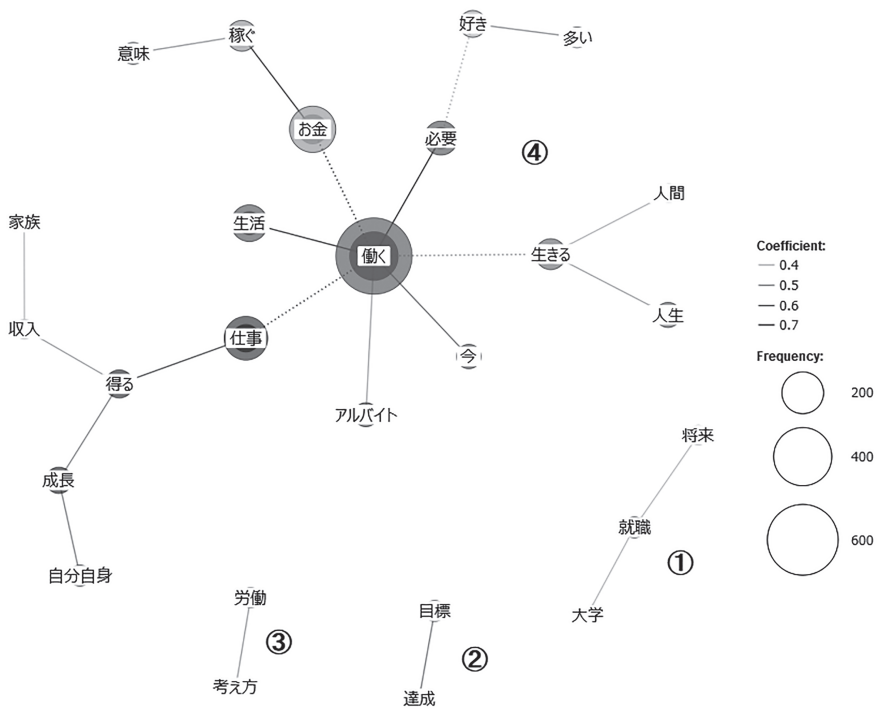


図2 働くことに関する共起ネットワーク2

注)集計単位は「段落(一人の意見が一段落)」 最少スパンニングツリーだけを描写

つぎに、図1で示された八つのコミュニティが階層的にどのように連なっているのかを見ていく。図3には、階層クラスタ分析1を示した。この集計単位は「文」である。

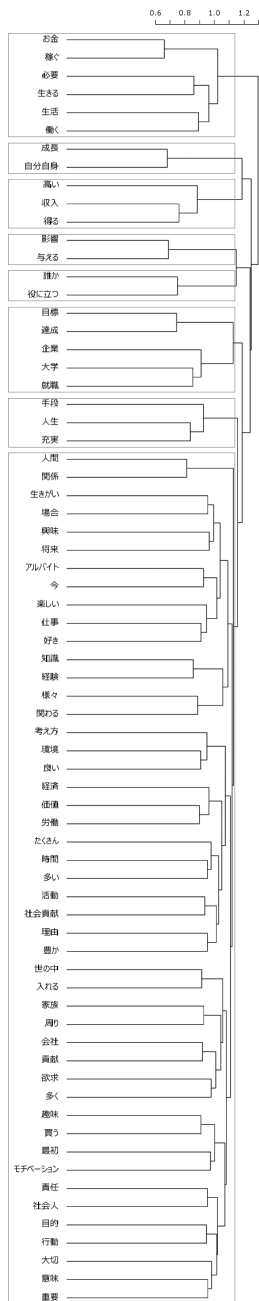


図3 階層的クラスター分析1

注)集計単位「文」 併合水準8

図4には、階層クラスター分析2を示した。この集計単位は「段落(一人の意見が一段落)」である。

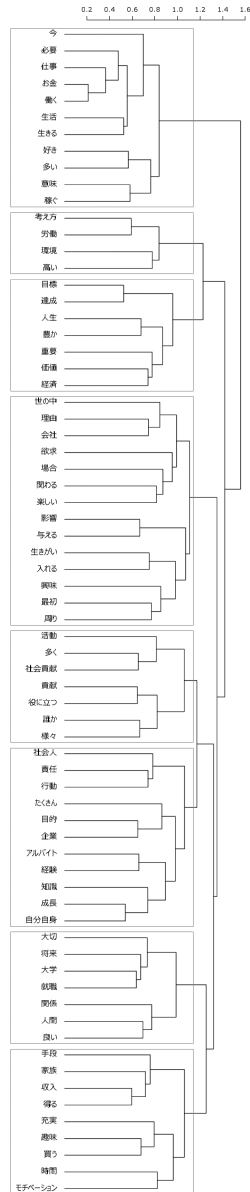


図4 階層的クラスター分析2

注)集計単位「段落(一人の意見が一段落)」 併合水準8



図5には対応分析を示した。ここでは単語の偏りが示される。中央付近にある単語の「関わる」は、多くの文脈の中で用いられていることがわかる。具体的には、「人と関わる」、「社会と関わる」である。多くの学生が働くことには人間関係が関係することを認識していると考えられる。中央から離れたところにある単語は特定の文脈の中で用いられているということだが、特定の文脈は、図5に示したように「人生の充実」、「自己実現欲求」、「労働の価値」、「目標を持つ」といった内容の文脈で用いられている。

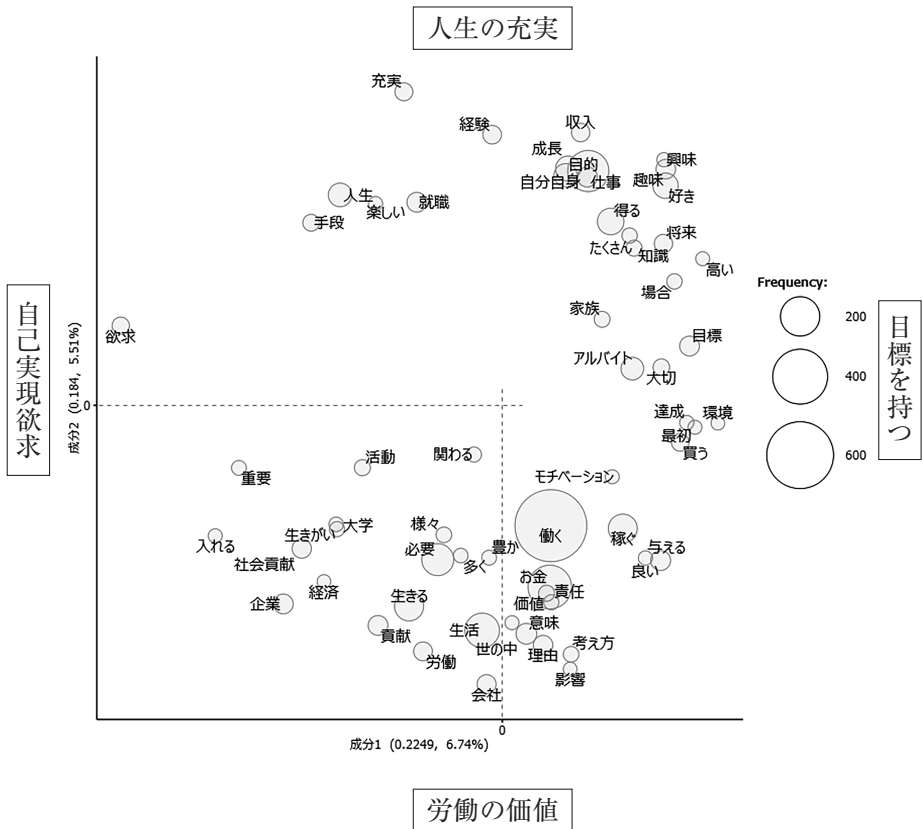


図5 対応分析

## VI. まとめと考察

今回の結果からは、たいへん現実的な考え方、例えば「働くことで自分の好きなことをする」、「または好きなものを買う」、「家族を養う」等、働くことが生きていく上で必要なこととの認識を持っていることが示された。またそれにより「人生を豊かにしたい」、「自分の自己実現をしたい」という仕事を通して得られることにも考えが及んでいる。さらに、アルバイトの経験等から大学卒業後の就職に関しての目標を持つ学生も存在し、多くの学生が働くことにおける「人間関係の重要性」に気がついていることがわかる。

安藤(2018)が指摘していた「好きなことを仕事に結びつける傾向」に関しては、「好き」をKWICコンテンツで調べたところ、ヒット数は79で、「好きなことが仕事に繋がることはない」、「好きなことに没頭できるのが幸せだが、実際は」といった現実的な意見や「好きな人のために働く」、「好きな物を買う」、「好きなことがしたいから働く」といった働く理由や働くことで得られる内容が目に付いた。数は多くないが、「物を作ることが好きだから、物をつくる仕事に就きたい」という意見もあり、これは好きなこと、やりたいことへのこだわりに基づいて仕事を探索しているが、労働のプレイ化とは一線を画している。

分析対象とならなかった出現頻度の少ない語にどのような特徴があるのかを見たが、取り立てて気になる語はなかった。念のために「綺麗事」、「厳しい」、「冷たい」などKWICコンテンツで確認したが、働くことやそれに関する内容で問題となることではなかった。

## VII. 結 言

キャリアやキャリア教育の背景には、日本の社会状況が関係している。近年、新卒一括採用という日本的雇用を前提とする「メンバーシップ型雇用」<sup>6)</sup>が崩れてきたと言われてきている。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症への対策としてのテレワークが、メンバーシップ型雇用とはあまり相性が良くないとい

---

6) メンバーシップ型雇用とは、社員の生活を保障することを基本理念にかかげ、その実現に終身雇用慣行、年功賃金を構築してきた雇用で、社員を適材適所に割り当てる「人(ヒト)主体」の仕組みである。

うことも影響しているのか、「ジョブ型雇用」<sup>7)</sup>へ転換の動きとなり始めているように感じられる<sup>8)</sup>。会社が仕事を決めてくれた時代から自分で仕事を決めていかなければならないという自己責任の時代へと変わりつつあると言えるのだろう。その意味で、大学生が働くことをどのように考えているのかについても、将来的には現状の社会状況を把握した自分自身のキャリアに関する考え方が出てくるのではないかと思われる。

また、上述のような社会の流れにおいて、大学側もその教育における職業的レリバンスの持つ意味が大きくなっていく。文系の場合、これまで就職の実態と職業的レリバンスの繋がりが難しいとされてきたが、今後は専門性を高めながら、職業的レリバンスということがこれまで以上に意識されていくことになるのだろう。その意味で、学んでいる内容と将来の仕事との繋がりを考えていくキャリア科目も上述のことを意識せざるを得ないと考えられる。

#### 《引用参考文献》

安達智子 (2004) 「大学生のキャリア選択—その心理的背景と支援」『日本労働研究雑誌』533, 27-37.

安藤りか(2017) 「大学のキャリア教育科目における「働くことの意味」の検討: テキストの記述を手がかりに」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』54巻1号, 65-80.

杉村芳美(1990) 『脱近代の労働観』ミネルヴァ書房.

---

7) ジョブ型雇用は、「賃金は仕事の内容」で決まる。高度な専門性を必要とする仕事であれば、年齢に関係なく賃金は高くなる。

8) 2022年1月10日の日本経済新聞の一面には、「日立、全社員ジョブ型に」というタイトルが踊る。